

令和5年度 府立福知山高等学校三和分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>府民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 基礎学力の向上と希望進路の実現にむけての、生徒個々の実態に応じた指導の徹底</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力(5K力)の育成</p> <p>4 人間としての総合力の育成に向けた体験的教育活動の実践</p>	<p>(成果)</p> <p>1 生徒自身の学習に対する意識の向上等により、全体的に落ち着いた中で教育活動を行うことができた。</p> <p>2 新学習指導要領が本格実施となり、観点別評価やICTの研究を進めることができた。</p> <p>3 進路面は、生徒・保護者との相談を継続的に行い、関係機関・就学相談員との連携を密にし、丁寧に進めることができた。</p> <p>4 コロナの影響が少しずつ緩和される中、行事等は工夫を加えることで、より充実した活動になった。</p> <p>5 様々な課題がある生徒の実態把握や指導の手立てが共有化し、個別の指導計画を基に全教職員でPDCAサイクルを回すことにより、個々の生徒に応じた指導ができた。</p> <p>6 「三和分校ルーブリック」「コグトレ(学習面・社会面)」等を効果的に取り入れることにより、成果が出てきた。</p> <p>7 コロナ禍の中、工夫をしながら販売活動ができた。また、MVP(食品加工室)の活用を積極的に進めることができた。</p> <p>8 MVPに係わり、農業科、家政科の合同会議を重ねることで、両学科の連携をより緊密にすることができた。</p> <p>(課題)</p> <p>1 卒業後を見据え、4年間でつけたい力の育成を目指し、教育活動全体についての教育効果を検証し、改善・整理等を行う。</p> <p>2 特別支援教育の理解と研究をより一層推進する必要がある。</p> <p>3 生徒同士の理解を深める取組を進め、互いに尊重し合い高め合える学級・学校づくりに取り組む。</p> <p>4 加工室等の教育環境を活用し、農業科と家政科の連携をより一層強め、目標を明確にししながら、取組を推進する。</p> <p>5 BYODが始まり、ICTの効果的な活用方法も含めた授業改善及び評価方法等、新学習指導要領の理念に基づいた教育活動を進める。</p>	<p>1 基礎学力の定着</p> <p>(1) 「わかる授業」を実践し、基礎学力を定着させる。</p> <p>(2) 個に応じた指導により学習に対して努力を継続させ、やればできるという成功体験を通して、自信をつけさせる。</p> <p>(3) 規律ある授業環境の定着を目指す。</p> <p>2 原級留置・中途退学の防止</p> <p>(1) 生徒の実態把握に努め、個に応じた配慮・指導を行う。</p> <p>(2) 生徒個々に目標を立てさせ、学ぶ意欲をもたせる。</p> <p>(3) 基本的な生活習慣の確立を促す。</p> <p>3 社会人になるための自覚を促す指導</p> <p>(1) 人権感覚を磨き、思いやりをもって他者と関わるができるようにする。</p> <p>(2) 販売実習や地域連携等の体験を通して、他者と協力することの重要性を認識させ、地域や社会の一員であることを自覚させる。</p> <p>4 生徒支援の研究と充実</p> <p>(1) 将来社会に出ることを見据え、認知機能を高める取組を行うとともに、スモールステップで課題を乗り越えていけるように、個に応じた指導や支援を充実させる。</p> <p>(2) 生徒個々の指導計画を作成し、支援を要する生徒の指導方法や授業の方法を研究し実践する。</p> <p>5 希望進路の実現</p> <p>(1) 保護者、各種関係機関と連携を深め、個に応じた進路選択・進路実現を目指す。</p> <p>(2) 低学年からキャリア教育を充実させ、卒業後の進路を早い段階から意識させる。</p> <p>6 OJTの推進</p> <p>(1) 教職員が取組の成果や課題を共有し、改善に向けた方策を積極的に議論できる雰囲気を作り、チーム力を高める。</p> <p>(2) 農業科と家政科のコラボなど、学科・教科・分掌等を越えた横断的な取組を積極的に行う。</p> <p>7 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>(1) 危機意識や防災意識を高め、日々の点検に努める。</p> <p>(2) 学校防災マニュアルにより生徒・保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立する。</p> <p>8 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 丁寧に家庭連絡・家庭訪問を行い、家庭との連携を密にし信頼関係を構築する。</p> <p>(2) 関係機関との連携・協働により、教育内容の充実を図る。</p> <p>9 府立高校特色化事業(京都フロンティア校)</p> <p>(1) 農業科と家政科との連携を一層強化し、活性化を図る。</p> <p>(2) 発表する機会を多く設け、役割を付与することにより、主体的に考え、表現し、行動する力を磨く。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	・教育目標達成に向けた取組体制の確立	・学校経営計画に基づき、各分掌・学科・教科それぞれが教育目標達成に向け、一体となって取組を進められるよう環境や条件を整備する。	B	B	・多くの分掌において計画の目標が達成できた。 ・教職員の業務の工夫改善には一層取り組む必要がある。
		・OJTを推進し、教職員間の密接な連携のもと組織的・協働的に業務遂行が行えるよう配慮する。	B		
	・生徒、保護者、地域のニーズに応える、開かれた学校づくりの推進	・生徒・保護者へのきめ細やかな対応により、個の特性に応じた丁寧な指導を行う。	A	A	・個々の生徒の特性に応じた丁寧な指導と教職員間での課題の共通理解により、生徒・保護者との信頼関係の構築ができた。「みわ分校だより」の積極的な配布や新聞やテレビにも多く取り上げられた。ホームページでは、「三和分校日誌」で、速報性のある情報提供ができた。
		・体験セミナー・学校説明会や学校行事、PTA総会、各学科の取組やホームページを通して、昼間定時制や学科の特色を理解してもらう。 〔体験セミナーにおける参加者の満足度〕	A		
	・生徒募集を意識した広報活動の活性化	・新聞等の掲載回数が増えるように外部機関に積極的に働きかけたり、各中学校等、関係機関に学校案内や広報資料を配布する等、分校の存在や教育活動の中3生に知ってもらう機会を増やす。	A		
・府立学校特色化推進事業（京都フロンティア校）に関する取組の継続発展	・各学科の取組を教職員全体での共通理解のもと支援体制を深める。 ・両学科の連携をさらに緊密なものにするとともに学校全体で地域連携・地域貢献を進める。	B	B	・学科の特色を生かし、地域貢献や学科間の連携事業を積極的に進め、「京都フロンティア校研究成果発表会」で発表した。	
事務部	・円滑で的確な窓口業務と分校全体を見渡した、教育環境の整備	・親切、丁寧な対応を心がけるとともに、援護制度等担任との連携を密にし、的確な事務処理を進める。	B	B	・保護者や生徒に対し、丁寧な対応ができた。 ・分掌や教科と連携し適正かつ効果的な予算執行を行った。
		・予算の有効活用と適正な会計事務を行う。	B		
	・危険箇所の早期発見、早期改修と校内教育環境の安全衛生管理	・安全点検を定例化し危険箇所の早期発見と迅速な対応に努める。	A	A	・分掌、教科と常に連携し、環境整備と危険箇所の発見 ・改修・危険防止措置が実施できた。
		・ゴミの分別回収と搬出、溝の消毒等校内の清潔、整理整頓に努める。	A		
教務部 (図書・視聴覚)	・授業規律の確保と、基礎学力の定着	・授業を受ける5つのルールを示し、生徒指導部・学年部・学習支援担当と連携して授業規律の確保に取り組み、個に応じた指導により、進級・卒業を目指す。	B	A	・中間考査後の教科担当者会議で、一人ひとりの生徒について情報を共有し、今後の指導について意見交換をすることができた。 ・担任と連携し、欠課時数や授業での様子を保護者に伝えることができた。
		・学習課題のある生徒の基礎学力を定着させるため、教科担当者と連携し、丁寧で分かりやすい授業で、わかる喜び、学ぶ意欲を育てる。	A		
		・家庭との連携を密にし、生徒・保護者等の状況を十分に把握し、生徒のためによい方法を保護者と確認し、指導する。	A		

				・授業規律の確保について、教員全体で統一した指導ができるよう整えていく必要がある。								
・基礎学習、トライ学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学習を効果的な学習とするため、取り組み方の工夫改善に努める。 ・トライ学習の内容をより充実させ、生徒の主体性、協働を促す。 <p>[トライのアンケートで、主体性・協働性が身に付いたと答えた生徒割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8割以上 (32人以上)</td> <td>6割以上 (24人以上)</td> <td>4割以上 (16人以上)</td> <td>4割未満 (16人未満)</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	8割以上 (32人以上)	6割以上 (24人以上)	4割以上 (16人以上)	4割未満 (16人未満)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の基礎数学について、確認テストを導入し、学力の確実な定着を目指すことができた。 ・トライでは取組の目的を明らかにし、昨年度よりも生徒主体の取組とすることができた。
A	B	C	D									
8割以上 (32人以上)	6割以上 (24人以上)	4割以上 (16人以上)	4割未満 (16人未満)									
・適切な観点別評価の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価について、三和分校の生徒に適した評価の在り方を、教科担当者と連携し研究していく。 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科、教科に任せている部分が多く、全体での確認を行う必要がある。 								
・授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の効果的な使い方を提案し、活用を促す。 ・公開授業など、互いの授業を参観することにより授業力の向上を図る機会を増やす。 <p>[公開授業参加延べ回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30回以上</td> <td>29~20回</td> <td>19~10回</td> <td>10回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	30回以上	29~20回	19~10回	10回未満	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の延期により公開授業週間を1回減らし、公開授業参加延べ回数は17回であった。 ・タブレット端末の活用方法など、全体で研修する機会を設けていく必要がある。
A	B	C	D									
30回以上	29~20回	19~10回	10回未満									
・校務システムのスムーズな運用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数の確保、指導要録・出席簿等の表簿の適正な管理を行うことにより、教育計画の適正な実施を図る。 ・校務システムに係るOJTを行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校務システムに係るOJTを進めていく必要がある。 								
・図書室の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の充実を図り、昼休みの開館を続けることにより、より生徒に身近な存在となるようにする。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室のキャンペーンや朝読書の取組を行うことで、図書室の利用を促すことができた。 								
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の育成及び規律ある生活習慣の確立に向けて、三和分校ループリックを有効活用した指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌と協力し、全ての生徒が落ち着いて、前向きに、安心して普段の学校生活や特別活動を送れる安全で規律ある環境作りを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・問題事象やいじめ関連について迅速な情報収集と個別指導を行うことで、大きなトラブル無く安全で規律ある環境づくりを行うことができた。 ・HR委員や各委員会が積極的にループリックを活用した活動をする事が出来た。体育 								
		<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や委員会、部活動など他者との関わる活動の中で自分の強みを見つけ、成功体験を通して自己肯定感を育む教育を行う。 	A									
		<ul style="list-style-type: none"> ・4年次の進路実現を意識し、社会性やコミュニケーション能力育成のため、挨拶や言葉遣い、身だしなみを日常的に指導する。 	B									

					祭や文化祭でも、生徒が積極的に活動でき充実したものになった。 ・様々な活動の中で、学年を越えた生徒同士の良好な関係を構築しつつあると感じる。言葉づかいや身だしなみについて日常的に注意喚起を行えた。								
	・納得と説得を基本とする丁寧な生徒指導を行う	・生徒個々の事情や特性、家庭の状況に配慮し、個に応じた適切で丁寧な指導を行う。 ・教職員全員で指導方針を共有し、本人はもちろん家庭にも理解と納得のいくねばり強い指導を行う。	A	A	・問題事象やいじめ関連について迅速な情報収集と丁寧な個別指導、家庭との連携を行うことができた。 ・生徒の問題事象や問題行動について、職員会議や朝礼で全教職員に情報共有ができた。								
	・生徒会活動の活性化と自主性の確立を目指す	・体育祭や文化祭などの生徒会活動や委員会活動、クラスの取り組み、放課後の部活動を活性化させ、生徒の自主性や社会性を育てる。	A	A	・HR委員や各委員会が積極的に活動する事が出来た。体育祭や文化祭でも、生徒が積極的に活動でき充実したものになった。								
進路指導部	・希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生との相談活動等の充実を図るとともに、家庭及び関係機関・就職支援教員等との連携を図る。 ・入試・就職試験等に向けて丁寧な指導を行い、生徒全員の希望進路の実現を目指す。 ・希望進路の決定・実現に向け低学年時からの指導を推進する。 <p>[2学期個別面談時の進路指導件数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40件以上</td> <td>39～30件</td> <td>29～20件</td> <td>19件未満</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学・短期大学等への進学を希望する生徒が模擬試験を受験できるよう計画し、情報提供する。 	A	B	C	D	40件以上	39～30件	29～20件	19件未満	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生については、生徒及び保護者との相談を継続的にを行い、関係機関・就職支援教員との連携を密にし、個に応じた指導を丁寧に進めることができた。 ・1～3年生の個別面談を2学期に実施し、卒業後の進路について指導した。 ・4年生の進学希望者に出願書類等の指導を実施した。また、模擬試験を三和分校で実施し結果を進路指導に活用できた。
			A	B	C	D							
			40件以上	39～30件	29～20件	19件未満							
			A										
A													
A													
	・援護制度の紹介と活用	・個々の生徒の進路希望や経済的な課題等をより早期から丁寧に把握し、進路にかかわる費用や援護制度に関する情報を適切に提供する。	A	A	・4年生には4月の四者面談時に支援制度についての情報提供を行った。その他の奨学金についても、人権教育部と連携して取組を進めた。								
	・教員の進路指導力の向上	・就職指導等に関する教職員研修を実施する。	A	A	・1学期に教職員研修を実施し、人権の観点からの就職指導について共通理解を図ることができた。								
保健部	・感染予防対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・感染の動向を踏まえた感染予防対策への指導を推進し、意識の向上と定着を図る。 ・朝の健康観察のデジタル化を図り、教職員間で情報共有 			・CO2モニターがHRに設置されたため、数値の意識付けが								

		がスムーズに行えるよう工夫する。 ・CO2 モニターを活用した教室内の換気の取組など、保健/環境美化委員会とも連携した活動を進める。	B	B	できた。 ・ハンカチ持参等の呼びかけができなかった。								
	・健康教育の推進	・健康診断における事後措置の充実を図り、必要に応じて個別指導を行う等、受診率の向上を目指す。 ・歯の健康に係わるアンケートを実施し、学校歯科医とも連携しながら実態に応じた保健指導の充実を図る。 ・ほけんだよりを発行し、心身の健康について生徒の興味関心に繋がるよう内容等を工夫する。 〔ほけんだよりの発行回数〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回以上</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	6回以上	5回	4回	3回以下	A	A	・担任の先生に指導をしていただき、受診を勧めることができ、実際に受診をする生徒が増えた。
A	B	C	D										
6回以上	5回	4回	3回以下										
	・教育相談活動の充実	・教職員や専門機関等との連携を的確に行い、生徒へのきめ細やかな指導と支援をする。	B	B	・2回実施をした。SCにも参加していただき、専門的な助言をいただいた。専門機関との連携がスムーズにできないことがあった。								
	・環境美化活動の充実	・学習環境が清潔に整然と保たれるよう保健/環境美化委員会を中心に呼びかけを行い、福知山市のゴミ分別を徹底する。 〔ゴミ分別チェック実施回数〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3回以上	2回	1回	0回	B	B	・ゴミ分別チェックの実施回数は3回以上だが、声かけをしないとゴミ分別場所まで来ない生徒がいたり、ゴミの分別が徹底できていなかった。
A	B	C	D										
3回以上	2回	1回	0回										
	・安全点検の強化	・生徒と教職員による校舎内外の安全点検を定例化し、学習環境を整備する。 〔安全点検の実施回数〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3回以上	2回	1回	0回	A	A	・技術職員と協力し実施をすることができた。把握が不十分な箇所もあった。
A	B	C	D										
3回以上	2回	1回	0回										
人権教育部	・人権意識の高揚と、自他を尊重できる集団づくり	・人権教育会議を開催し、日常的に点検確認するとともに、生徒対象の講習会や教職員研修会を各部と連携して行う。	B	B	日常的に担任の先生を通して、生徒の状況について確認するように努めた。 人権に関する問題が発生していないため、人権教育会議を実施しなかった。								
		・人権アンケートの結果を生かし、講演等を計画する。また、いじめやからかいなどの問題について、生徒指導部、学年部と連携して対応する。	B										
	・きめ細かな、就・修学援助	・各種奨学金等について、保護者・担任・事務・各関係機関と連携を図り、速やかに案内や指導、申請をする。 ・通学費補助や、進学・就職支度金等に関する手続きなどに的確に対応する。	B	B	各種奨学金について、学年と連携して速やかに申請することができた。 今年度は進学する生徒がいなかった。								

学習・特別支援	・生徒の実態把握と支援体制の整備	・担任、教科担当者との連携を密にし、面談の機会を利用するなどして生徒の実態把握に努め、必要な生徒への具体的な支援目標と方法を検討する。	B	B	・保護者面談時に同席し、保護者・生徒と確認のもと、支援目標と方法を検討した。 ・特別支援教育連絡調整会議を計画に沿って開催したが、支援員の配置の調整を細かに行うことができなかった。 特別支援会議を6回開催した。							
		・特別支援教育連絡調整会議を開催し、支援を要する生徒の特性・問題状況の確認及び支援員の配置の調整等を行う。 ・必要に応じてケース会議等につなげていく。 [会議開催回数]	B									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B			C	D	6回	5回	4回	3回以下	A
	A	B	C			D						
	6回	5回	4回			3回以下						
・個別の指導支援	・個別の指導計画作成にあたり、担任や教科担当者と協力し、アセスメント表の作成・充実を図る。 ・個別の指導計画は、本人・保護者の思いを踏まえて作成し、互いに共通理解が図れるよう連携・相談を進める。	A	A	・定期的に個別の指導計画の運営状況を会議で確認し、情報の共有を行った。面談時に個別の指導計画の確認を行った。 ・活性化会議の中で内容を検討し、実施を進めることができた。								
	・コグトレの運用に向け、活性化会議とも連携しながら生徒への実施、評価を行う。	A										
・指導支援方法等や生徒理解に関する教職員の資質向上	・生徒の得意と苦手を理解した指導を進めるため、早期からの巡回相談の活用を目指す。担任との連携の強化や、家庭・本人へ支援のための情報を提供し、分かりやすい説明の充実を図る。	A	A	・面談等において、本人・保護者への情報提供を行い、巡回相談を活用することができた。 ・関係機関の研修を教職員で受講し、特別支援教育への知識を深めることができた。								
	・関係機関、校内の関係分掌と連携し、生徒理解を深めるための教職員研修会を実施し、特別支援教育について正しく学ぶ機会の充実を図る。	A										
・移行支援の充実	・中高連絡会や個別の移行支援シート等をもとに、必要に応じて本人・保護者との入学前面談を実施し、切れ目のない支援を目指す。	A	A	・入学前面談を行い、スムーズに学校生活に必要な支援を行うことができた。 ・福祉的就労について関係機関との連携のため、合同就職面接会に参加した。								
	・進路指導部と連携し、福祉的就労について生徒・保護者への情報提供を進め、関係機関とも連携しながら、卒業後を見据えた指導の充実を図る。	A										
学年部	・確かな人間力の向上	・普段の挨拶や言葉遣い、丁寧な字を書く力、時間厳守など社会で通用する力を向上する為、日頃の指導を徹底する。	B	B	三和分校「ルーブリック」として、目指す人間像を示した。学期や行事ごとにポスターを作成し、声掛けを行った。また、学期ごとに振り返りを行い、自身の成長を確認した。							
	・生徒が集中できる授業環境の確立	・授業を受ける5つのルールの定着を目指し、統一した指導を徹底するとともに教室の整理整頓、美化に努める。	B									
	・希望進路の実現	・4年間を通して、進路への意識を高め進路実現を目指すために、生徒に適切な情報を提供する。また、低学年からの進路指導を推進するために進路指導部と連携して1～3年生の個別進路面談を実施する。 [1～3年生の進路面談実施率]	A			B	進路指導部と連携し、学年に応じた進路ガイダンスや個人面談を行うことで進路への意識を高めることができた。 各分掌と連携し、個に応じた					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>75%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%			75%以上	50%以上	50%未満		
A	B	C	D									
100%	75%以上	50%以上	50%未満									

		・アルバイト等の就労体験を奨励し、進路指導部、生徒指導部、特別支援教育コーディネーターと連携を図り、個に応じた指導をする。	B		丁寧な対応ができた。								
・情報の共有		・面談や家庭連絡を丁寧に実施し、個々の生徒の課題や特徴を把握し、日々の指導において、効果的で迅速な対応をする。	A	A	家庭との連携を密に取り、些細な変化を見逃さないよう、効果的な対応ができた。定期的に学年部会を開き、情報を共有し、統一した指導ができた。								
		・日頃から生徒に対する教職員間の情報共有を図り、個々の生徒の共通理解に努める。定期的に学年部会を行い、統一した指導を徹底する。	A										
・研修旅行の実施		・研修旅行の成功に向け、生徒とともに準備し、安全で効果的な教育活動となるよう実施する。	A	A	天候の影響により大幅に日程を変更しての実施となったが、参加した生徒にとっては非常に経験となり協調性や規律が向上するなど成長へと繋がった。								
		・感染症対策に注意したうえでの実施となるが楽しく充実した研修旅行になるようにする。	A										
農業科	・農業に関する専門知識や技術の学習を通して、「生きる力」を身につけていく	・各学年ごとの生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。また、一人1台のiPadの導入による利用方法の研究をさらに進める。	B	A	実習を通して、チームワークやコミュニケーションの能力の向上は一定図れたがプレゼンテーションの能力の向上には課題が残った。圃場にはiPadは持ち込みにくく、活用方法を模索している。								
		・実習では体験的で実践的な授業を通して、生徒にチームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力向上を図る。	A										
・地域連携の推進		・農場生産物の販売を積極的に行い、地域から必要とされる農場運営を行う。	B	A	・校外への販売がほとんどできなかったが、校内での苗の販売等は例年通り実施できた。 ・福知山市や地域の企業との連携は、内容を充実することができた。								
		・福知山市や地域の企業と連携した取組を充実させる。 [連携回数]	A										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下			
A	B	C	D										
5回以上	4回	3回	2回以下										
・希望進路実現のための資格取得等への取組		・校内行事や府連各種行事に積極的に取り組み、農業クラブ活動の更なる活性化を目指す。	A	A	・各種行事で農業クラブ役員を中心とした動きが多くなってきた。 ・資格取得については、例年より多くの生徒が取り組めた。 ・新しい資格へは、受講料の関係もあり勧めにくい状況である。								
		・農業関連資格取得に意欲的に取り組ませる [小型建機受講者数]	A										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5人以上</td> <td>4人</td> <td>3人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5人以上	4人	3人	1人			
A	B	C	D										
5人以上	4人	3人	1人										
		・教育長表彰取得率の向上を目指す。											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5人以上</td> <td>4人</td> <td>3人</td> <td>2人以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5人以上	4人	3人	2人以下			
A	B	C	D										
5人以上	4人	3人	2人以下										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79~50%</td> <td>49~20%</td> <td>20%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79~50%	49~20%	20%未満			
A	B	C	D										
80%以上	79~50%	49~20%	20%未満										

		<ul style="list-style-type: none"> ・新たな資格取得にチャレンジさせていく。 (食品衛生責任者等) 											
	・家政科・各教科との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家政科との連携をさらに深め、現在行っているコラボ授業や合同授業の充実を図る。 ・普通科目と連携した取組を行う。 ・加工室の利用について家政科と有効的な活用方法を検討する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・加工室の利用を含め、家政科との連携はできたが、普通科目との連携の在り方は検討課題となっている。 								
家政科	・基礎的専門的な知識・技能の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等を通して基礎的・基本的な知識・技術の修得を図り、学習したことを実生活に活用する意識や態度を養う。 [フードデザイン・ファッション造形(基礎)の実技テスト回数] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テストを考査期間中に各科目で実施した。知識・技術の習得に効果的であった。 ・専門科目の目標に合わせた活用法について検討した。記録を技術習得に役立てる、表現し多様なものの見方に触れる機会を増やすことに重点を置いたが、活用についての研修をしたい。
		A	B	C	D								
	5回以上	4回	3回	2回以下									
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒1人一台の学習用端末を活用した効果的な教材作成を進める。 	B											
・資格取得への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を考慮した上で家庭科技術検定等を計画的に実施するとともに、合格率60%を目指す。 [資格試験の合格率] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%以上</td> <td>59~50%</td> <td>49~40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60%以上	59~50%	49~40%	39%以下	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科技術検定の合格率は91%であった。色彩検定やプレゼン検定取得を生徒に呼びかけ、挑戦できた。(合格率93%) 	
A	B	C	D										
60%以上	59~50%	49~40%	39%以下										
・社会とつながる教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人講師活用事業や地域の保育・福祉施設での実習を通じて、教育活動の充実と活性化を図る。 ・家庭クラブ活動を計画的に運営し、コンテストへの挑戦等活動の充実・活性化を図る。 ・各科目の授業と家庭クラブ活動を組み合わせ、教育効果の向上を図る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・福祉施設での実習等、校外学習が少しずつ再開でき体験を通して学ぶことができた。 ・3回コンテスト応募し、のべ2回受賞した。学習意欲の向上に効果的であった。 ・責任感を持って自身の仕事に取り組めた。 									
・農業科との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組をさらに進め、食品加工室を活用した授業を展開する。 ・農業科との販売実習を計画・実施する。 [校内・校外での販売実習実施回数] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B		C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	A	A	
	A	B	C		D								
5回以上	4回	3回	2回以下										
	<ul style="list-style-type: none"> ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のできる食品加工室運用に取り組む。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目と家庭クラブ活動を組み合わせ、食品加工実習を効果的に実施した。 ・販売実習を12回実施した。段取りをする力やコミュニケーション力が向上し、社会とつながる学習の機会となった。 ・食品加工室をスムーズに運用するために、定期的に打ち合わせを実施した。今後も連携を取り、共通のルール作りを進めていく。 									

				・衛生管理と品質管理に努め 食品検査において良好な結 果を得た。
--	--	--	--	----------------------------------------

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・農業科のみならず、家政科の取組も他校の生徒との交流ができたことが素晴らしい。 ・他校の生徒からも自分たちの学習の中で身に付けた成果を外部からも評価され、自己有用感が高まっている。 ・自分たちが認められ自信をつけていく機会を大切にしていくことが重要である。 ・三和分校の取組も、生徒の実態を踏まえつつ、学科の特徴を生かした研究活動が実施されている。 ・本校文理科学科「みらい学」、普通科「みらい考」、附属中学校「みらい楽」と同様に、「みらい〇〇」で、本校・三和分校・附属中学校をつないでみてはどうか。
次年度に 向けた改善 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒の実態把握に努め、引き続き教職員全体に情報を共有し、教育活動を行う。 ・特別支援教育の理解と研究をより一層推進し、一人ひとりの成長に向けた支援をより具体的に行っていく。 ・生徒同士の良さを認め合い、理解を深める取組を進め、互いに尊重し合い高め合える学級・学校づくりに引き続き取り組む。 ・食品加工室等の教育環境を活かし、農業科と家政科の連携をより一層強めそれぞれの特徴を生かした取組を推進する ・I C Tの効果的な活用方法も含めた授業改善及び評価方法等、新学習指導要領の理念に基づいた教育活動を一層進める。